

## 校長室から (NO. 26)

### 「いのちのうた」が学校中に響いて

1月の「今月の歌」は、「いのちのうた」です。全く個人的なことですが、この「いのちのうた」は、何度聞いても、どこで聞いても、涙が出てくるのです。よっぽど、私の琴線に触れるメロディーラインなのだと思います。

朝、校舎内を廻っていると、どこの教室からもこの歌が聞こえてきます。さらに子供たちの歌声であることで、心にぐっとくる思いは、隠しきれません。

「泣きたい日もある、絶望に嘆く日も、  
そんな時そばにいて 寄り添うあなたの影」♪と、

低学年の子供たちが歌っているの聞いて、どんな思いで歌っているのかと思うと、ちょっぴり微笑ましくもあります。

この歌の歌詞を噛みしめて、日々過ごしたいものです。

#### いのちの歌

作曲：村松崇継 作詞：Miyabi(竹内まりや)

生きてゆくことの意味 問いかけるそのたびに  
胸をよぎる 愛しい人々のあたたかさ  
この星の片隅でめぐり会えた奇跡は  
どんな宝石よりもたいせつな宝物  
泣きたい日もある 絶望に嘆く日も  
そんな時そばにいて 寄り添うあなたの影  
二人で歌えば 懐かしくよみがえる  
ふるさとの夕焼けの 優しいあのぬくもり

本当にだいじなものは 隠れて見えない  
ささやかすぎる日々の中に かけがえない喜びがある

いつかは誰でも この星にさよならを  
する時が来るけれど 命は継がれてゆく  
生まれてきたこと 育ててもらえたこと  
出会ったこと 笑ったこと  
そのすべてにありがとう  
この命にありがとう